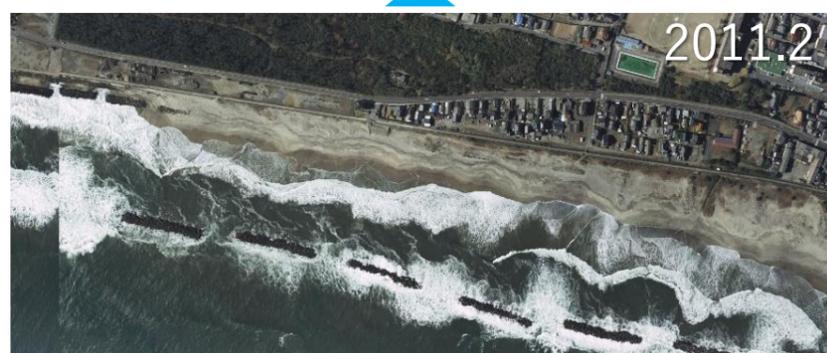
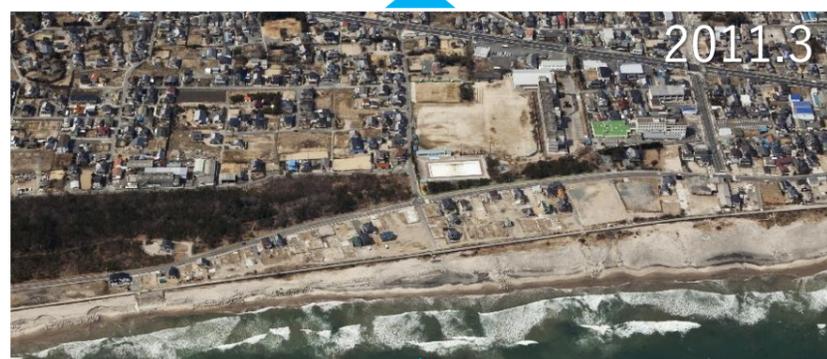


四倉地区



2020.9

四倉のうつりかわり



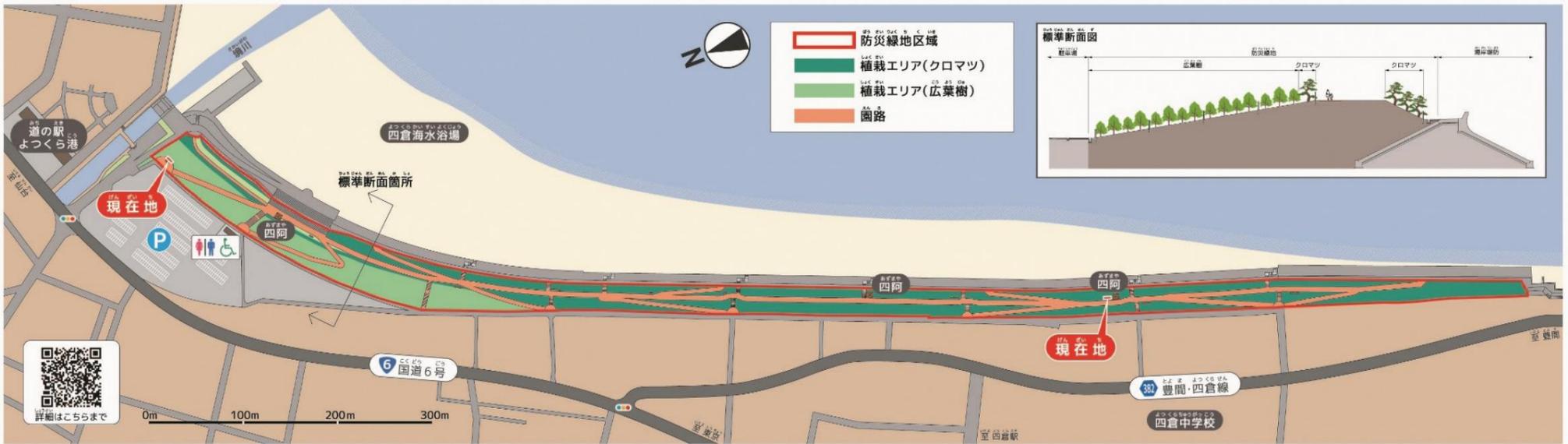
来て見て四倉



ベコ太郎



よつ くら ぼう さい りょく ち あん ない ず 四倉防災緑地案内図



『防災緑地とは…』

防災緑地は、①津波から人や家を守る、②地域の交流の場、③緑豊かな環境や景観をつくるという3つの大きな役割をもっています。
また、川や海の堤防と道路がいっしょになって津波から地域を守る「多重防御」という働きによって、防災力が総合的に向上したまちづくりを目指しています。

『四倉防災緑地について』

四倉防災緑地は、延長約1.5km、幅約30mで面積約4.9haの防災緑地です。
防災緑地の海側には潮風に強いクロマツ、住宅地側には四倉地区に自生している代表的な樹種(クヌギ等の広葉樹)を植えた緑地帯となっております。

『防災緑地をきれいにしましょう。』

四倉防災緑地は、みなさんが楽しく過ごすための施設です。施設をいつもきれいにするためには、一人一人がマナーやルールを守ることが大切です。
お弁当やジュースの空き缶などのゴミ、また、ペットのフンは必ず持ち帰りましょう。

※この案内図は、防災緑地に実際にあるレイアウトを採用しています。

施設に関するお問い合わせ先 福島県いわき建設事務所管理課 (電話) 0246-24-6122

四倉防災緑地のオリーブについて

オリーブはモクセイ科のオリーブ属で、5月中旬から6月上旬にかけて花が咲き、7月頃から結実します。果実は油分を多く含み、オリーブオイルの原料にもなります。

地元のまちづくり団体が中心となり、四倉町の復興のシンボルとして防災緑地に植樹するため、四倉小学校でオリーブを育てることになりました。

東日本大震災から3年後に当たる2014年3月11日に児童が挿し木を行い同年7月16日には鉢に植え替えを行いました。大切に育てられたオリーブは高さ1m程度、実をつけるまでに成長しました。2018年6月1日、苗木が元気に大きく育つことを祈りながら、6年生がここ防災緑地に植樹しました。



▲ 結実したオリーブ



▲ 約1mに成長したオリーブ



▲ 挿し木の方法について説明を受けている様子



▲ 挿し木している様子



▲ 鉢に植え替える様子



▲ 防災緑地に植樹している様子



▲ 植樹完了後の様子

四倉のハマナスについて

ハマナスは北海道から東北にかけて海岸付近に自生するバラ科の植物で、かつていわき市の沿岸部に数多く群生していました。

しかしながら、沿岸部の開発等によりその数は激減し、東日本大震災後にいわき市内で群落を確認できた箇所は、ここ四倉を含め数カ所となってしまいました。

四倉の群落が自生のものか定かではありませんが、東日本大震災の津波に耐えた群落であることから、後世に残したいという意見がありました。

そのため、防潮堤や防災緑地工事によりハマナスへの影響が懸念される場所から、地元の協力を得て四倉小学校内の花壇に児童の皆さんと仮移植を行いました。その後、元の群落地近くである現在の場所に戻しました。



▲ 開花したハマナス



▲ 仮移植前のハマナスの群落



▲ 四倉小学校への仮移植状況



▲ 四倉小学校への仮移植状況



▲ 現在の場所に戻す前の生育状況